有機米栽培、成功のポイントは雑草対策にあり
～有機農業拠点ほ場技術検討会を開催～

茨城県県北農林事務所では、持続可能な農業の実現と付加価値を高めた農産物生産による農業の振興を図るため、有機農業を推進しています。

今回は、有機米の普及推進のため、常陸大宮市（鷹巣地区）に設置した拠点ほ場での取組をテーマに技術検討会を開催しました。

◇　日　時：　令和５年12月８日（金）午後１時30分～

◇　場　所：　常陸大宮市　くりえーとセンター大宮

◇　主　催：　茨城県県北農林事務所

◇　共　催：　常陸大宮市

◇　参加者：有機農業実践者、有機農業に関心のある農業者、農業関係団体等　83名

【講演】県内の有機米の取組
（県農業総合センター　宮本　寛　氏）

有機米の最大の課題は「雑草対策」。複数回の代掻き、深水管理、移植直後の米ぬか等有機物使用、機械除草など複数技術の組み合わせで対応する。

【講演】常陸大宮市での有機米栽培のポイント
（民間稲作研究所　川俣　文人　氏）

雑草抑制が安定生産の第一歩。難防除雑草の「コナギ」を抑制するには、秋耕を早め稲わらの分解を促進し、複数回の代掻きによりトロトロ層（還元層）をうまく形成させ、発芽した雑草種子を埋没させる。

【講演】有機米栽培の取組
（常陸大宮市　㈱JA常陸アグリサポート　鈴木　康成　氏）

有機米栽培に初めて取り組んだ(3.2ha）。温湯種子消毒を実施(60℃、10分）、播種は4月23日、代掻きは3回実施（4月23日、5月15日、5月24日）、田植えは5月27日。田植え後、本田内の除草作業はなし。稲は倒伏したものの、9月20日に収穫し、カメムシの被害はほとんど受けず、玄米収量は10ａ当り7俵（420kg）を確保した。

【パネルディスカッション】
○生産者　常陸大宮市　藤田正美氏

有機米栽培に初めて取り組んだ（0.7ha）。稲の分げつが不足したが、丁寧な畦畔除草により、いもち病の被害を受けなかった。玄米収量は10a当り7俵（420kg）を確保した。

【パネルディスカッション】
○常陸大宮市農林振興課　課長補佐　疋田　徹治　氏

市長と農協組合長がタッグを組んで有機農業と学校給食への導入を推進している。鷹巣地区で有機米の取組はかつて集団転作をやっていた場所で農地集約しやすく、意欲的な担い手がいることが成功につながった。来年の有機米生産は8ha強を予定し、今年より生産量を倍増させる。